

## 第 38 回溶融塩化学講習会

### 中 温

#### - 100-600 の世界を極める電解質材料の活用と技術 -

主 催：(社)電気化学会溶融塩委員会

協 賛：日本化学会・日本セラミックス協会・イオン液体研究会・表面技術協会・日本金属学会・  
(予定)日本原子力学会・日本希土類学会・日本熱物性学会・軽金属学会・資源・素材学会・  
高分子学会・応用物理学会・固体イオニクス学会・電気化学会関西支部・電池技術委員会  
・SOFC 研究会等

近年のエネルギー・環境材料は、エネルギー変換における効率を如何に向上するかが重要な課題となっています。特にこれまで高温作動が当然とされてきた、固体電解質や溶融塩の取り扱いも徐々に低温化が進んでいます。その一方で、新しい液体材料として注目されている常温溶融塩(イオン液体)についても、高粘性・低イオン伝導率を改善するため、これまでよりも高い温度領域で作動させることが視野にはいってきました。このような材料の多くは 100~600 で作動しており「中温型材料」として注目されているところです。このたび溶融塩委員会で企画する講習会では、この中温領域を中心として比較的取り扱いやすい 100 付近から 600 まで、様々な分野において「中温」と呼ばれる領域での材料の取り扱いについて知り、今後の材料開発に向けた新たな展開について考えるきっかけとしていただければと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 2007 年 10 月 30 日(火) 10:00-17:50

場 所 神戸大学滝川記念学術交流会館 2 階大会議室

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/rokko/bun-ri-nou.htm> (図内 16 番)

#### プログラム

	10:00-10:10	開会挨拶			
1	10:10-11:10	AlCl <sub>3</sub> 系溶融塩の取り扱いと電気化学測定 の事例	同志社大工	盛満 正嗣	
2	11:00-12:10	イオン液体を用いた中低温還元拡散法による 銅合金の形成法	京大院工	邑瀬 邦明	
		昼 食			
3	13:10-14:10	プロトン伝導性無機-有機複合材料の開発 とその取り扱い - 中温作動燃料電池への応 用 -	阪府大院工	辰巳砂昌弘	
4	14:10-15:10	有機オニウム中温溶融塩の電気化学特性と その測定法	産総研	松本 一	
5	15:20-16:20	中温度領域の含水電解質融体の構造および 物性測定法	神戸大院工	梶並 昭彦	
6	16:20-17:20	熱力学を有効に利用した中温型燃料電池用 材料の研究	京大院工	宇田 哲也	
	17:20-17:50	質疑応答			

定員 100名(先着順)

参加費 会員(協賛会員を含む)6,000円, 学生 2,000円, 会員外 8,000円(税込み)  
テキストのみ購入(会員、非会員とも)4,000円(税込)  
なお、セミナー当日、溶融塩委員会へ入会された場合、参加費を1,000円とさせていただきます、  
差額を溶融塩委員会の入会金・年会費の一部とさせていただきます。)

参加申込方法：下記指定の URL からお申し込み下さい。 <http://msc.electrochem.jp/koushu38.html>  
なお、郵送・E-mail による申し込みも可能です。その場合は下記の内容をご連絡下さい。

1. 参加者氏名、
2. 所属、
3. 連絡先(郵便番号・住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス等)
4. 会員資格(会員扱いで参加を希望される場合は、入会している協賛学会名を記載して下さい)
5. 会費支払予定日(当日の現金取扱いはいたしませんので、ご注意下さい)

申込・問合せ先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1  
神戸大学自然科学系先端融合研究環内  
溶融塩委員会事務局 水畑 穰  
(TEL&FAX: 078-803-6186, E-mail: [msc@electrochem.jp](mailto:msc@electrochem.jp))

アクセス



阪急六甲駅・JR 六甲道駅・阪神御影駅の各駅から神戸市バス 36 系統乗車  
神大文理農学部前下車 校門を入れて徒歩 5 分。